

みんなの俳句がいっぱい！

# 学校歳時記

② 春の季語

監修

筑波大学附属小学校

白坂洋一

協力

現代俳句協会

秋尾敏

夏井いつき

(選・鑑賞)

# 卒業

そつぎょう 仲

学校での学習をすべて終えたことをお祝いし、学校とお別れすること。友だちや先生、通い慣れた学校との別れはさびしいが、新しい未来へ進むうれしい日でもある。

こんな季語もあるよ

卒業式 卒業生 卒業証書  
卒業歌 卒業期 卒園

卒業式見えないボタンわたされる

小六 関本圭吾

教科書の破れた表紙卒業式

中一 栗田三重子



# 入学

にゅうがく 晩

新しい学校生活のスタート。楽しみと少しの不安で胸がいっぱいだ。友だちや先生との出会いが待っている。日本の学校は四月に新年度をむかえるので、春の季語になっているが、世界の多くの国では、九月に学校の新年度が始まる。

こんな季語もあるよ

入学式 新入生 進学 入園

入学式小さな緊張ほほぴりり

小六 関川美智子

入学しキラキラかがやくランドセル

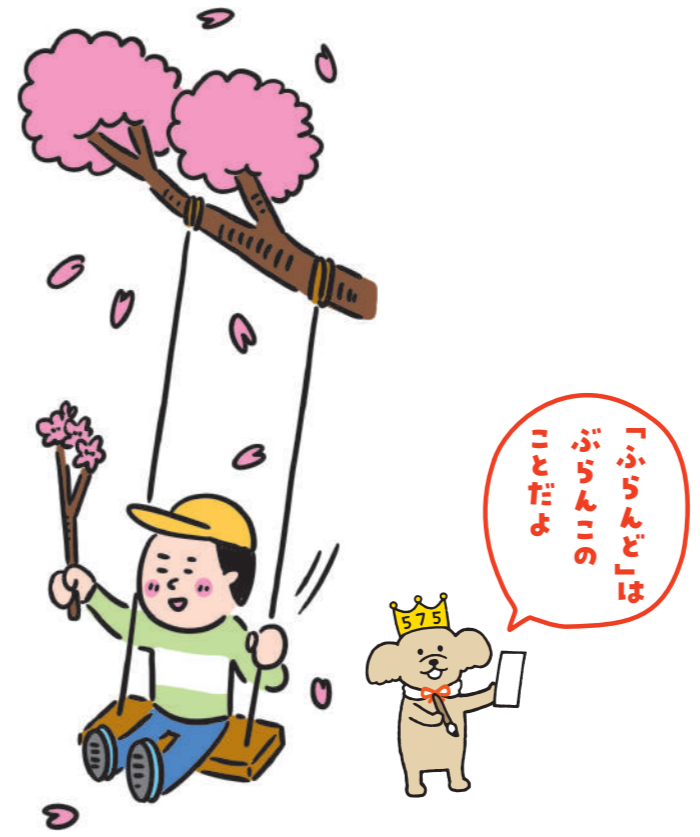
小五 愛美



# ぶらんこ

昔の中国で、春にぶらんこを楽しむ行事があったことから、春の季語になったといわれている。春は寒さから解放されて外で元気に遊ぶことができる楽しい季節。ぶらんこを思いきりこぐと、春の風を体いっぱい感じられる。

ぶらんどや桜の花をもちながら  
小林一茶



# しゃぼん玉

せっけん水をストローなどの先につけて吹く遊び。一年中できるが、春の光を受けて、きらきらうかぶようすは、春の「のどかさ」(↓44ページ)を感じさせてくれる。

しゃぼん玉思いをこめてふくらます  
小五 愛美



# 風車

風を受けて回るおもちゃ。中国から伝わり、春の初めに多くつくられたといわれている。平安時代から、子どもたちに楽しまれていた。

風車まわしてまわして母を待つ  
小五 ひなた

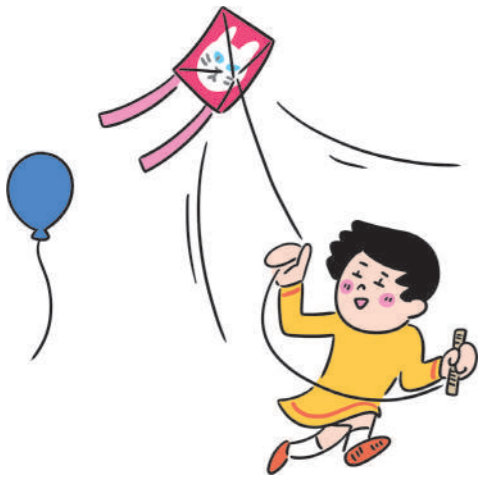


# たこ

細い竹などでつくった骨組みに紙を張り、糸をつけて風で高くあげて遊ぶもの。たこあげは、江戸で流行し、そのころは、「いか」や「いかのぼり」とよばれていた。しかし、いかのぼりの事故が多くなり、幕府がいかのぼりを禁止すると、人びとは「これはいかではなくなった」とへりくつをいって遊び続けたことで名前が「たこ」になったといわれている。

こんな季語もあるよ  
いか いかのぼり たこの糸

たこあげて心もふんわり空の旅  
小三 すずめ



# 風船

風船には紙でつくったものとゴムでつくったものがある。日本でゴム製の風船が売られるようになったのは、明治時代の初めごろ。五色の紙をはり合わせてつくられた紙風船が、出回りはじめたのは、明治時代の中ごろからである。息を吹きこむとふくらみ、手でついたり飛ばしたりして遊ぶ。

こんな季語もあるよ  
ゴム風船 紙風船

風船を手ばなし気づく空の色  
小五 すずらん



# 花 はな

晩

俳句で花といえば桜のこと。春のおとずれとともに日本各地で、うすピンクや白い花を咲かせる。「花見」や「花冷え(↓43ページ)」などの季語の「花」もすべて桜を指す。

こんな季語もあるよ

花盛り 花の雲 花の香 花の山 花便り 春花

花の下泣いてるあの子はだれだろな

小五 黒宮夜瑠

# 桜 さくら

晩

日本の国花。桜が街を染めると春が来た喜びで心がいっぱいになる。満開に咲きみだれ、あつという間に散ってしまう姿も美しい。春になるとニュースで開花予想が発表されるなど、多くの人が桜の季節を待ちわびている。

アスファルト桜の花の化粧済み

小六 宇治かおる

# 花づかれ

晩

花見に出かけたあと、つかれること。美しい風景や、友だちや家族とすごした時間が思い出されて、このつかれさえ楽しく思える。



花づかれ姉はおもちを食べづかれ

中三 おねえちゃんこ

# 初桜

仲

その年に初めて咲いた桜のこと。桜の開花は、古くから心待ちにされ、多くの俳句でその喜びを詠まれている。

こんな季語もあるよ

初花

初桜家族の笑顔ありがとう

小四 みお



# 花見

晩

桜の花をながめること。家族や友だちと桜の木の下で、おしゃべりをしたり、お弁当やおかしを食べたりして楽しむ。

こんな季語もあるよ

お花見 花見客

花びらのじゅうたんひいてお花見だ

小五 クロ



# 花吹雪

晩

まるで大雪がふっているかのように、桜の花びらがひらひらと散り落ちてくること。

こんな季語もあるよ

桜吹雪 散る桜 落花 散る花 花散る

思い出の通学路では花吹雪

小六 小鍛治あいり



# 夜桜

晩

夜に見る桜のこと。桜の木を光で照らすと、夜空に華やかな花がうかびあがり、昼間とはちがったふんいきになる。

こんな季語もあるよ

朝桜

夜桜や明かりがいらぬ夜の道

小四 ツバキ



# 早春

初

立春(↓56ページ)をむかえて間もない、春の初めのころのこと。だいたい二月末ごろまでをいう。まだまだ寒い時期だが、まわりをよく見てみると、少しずつ春の気配を見つげられる。

早春の夜の川辺で夢語る

中三 リック



# 春浅し

初

早春と同じ、春になってまだまだ寒さの厳しい時期のこと。早春にくらべると、ひびきはやわらかく、人間の感覚から季節のうつろいを表現した言葉。

塾がえり肉まんわけて春浅し

小六 めい



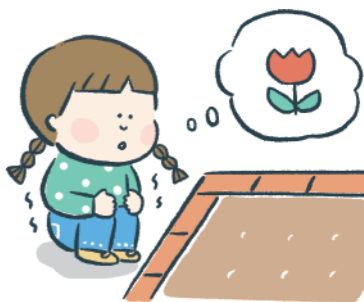
# 余寒

初

立春をむかえ、暦の上では春になっているのに、まだ残る寒さのこと。秋をむかえたあとの暑さを表す「残暑」に対応する言葉。

余寒かなドアを開くとすぐ閉じる

小六 無名のny



# 春寒

初

春の初めのころの寒さのこと。余寒よりも春への思いが強い。似た意味の言葉でもそれぞれにこめられた感情のちがいがあ。

こんな季語もあるよ 春寒し

春寒のうどんに黙らせる力

秋尾敏



# 冴返る

初

春らしくあたたかくなってきたところに、また寒さが戻ってくる。いちど、春のあたたかさを感じている分、よけいに寒さが身にしみる。

冴え返り文鳥も羽ふくらます

小六 文宮鳥雄



# 花冷え

晩

あたたかくなってきて桜が咲いたころ、急にまた冷えこむこと。雪がふって桜の花と雪の両方を楽しめることもある。

花冷えの朝はさわがし手袋どこ

小五 寒がり菜っぱ



# 春めく

初

だんだんと春らしくなってくることをいう。「早春」や「春浅し」と、時期の重なるころもあるが、春が来た喜びや、生き生きとした気持ちを感じられる言葉。

昨日より春めく景色に目を向ける

小四 璃穂



# 亀鳴く

三

亀は声を出すための声帯という器官がない。しかし、昔から鳴くものと考えられてきた。昔の人は春にどこからか聞こえる音を「亀の鳴き声か？このあたたかさでは亀も鳴くだろう」と想像したのだ。



亀鳴くや皆愚かなる村のもの

高浜虚子

# 落とし角

晩

生え変わりのために鹿の角が落ちることや落ちた角のこと。角が落ちると、また新しい角が生え始め、秋になるころにはりっぱに成長している。



角落ちてあちら向いたる男鹿かな

正岡子規

# ねこの恋

初

ねこが恋の季節をむかえる春、「ニャーニャー」といつもより鳴くようになり、そわそわと落ち着きがない。おすはごはんを食べるのも忘れて相手を探し回る。



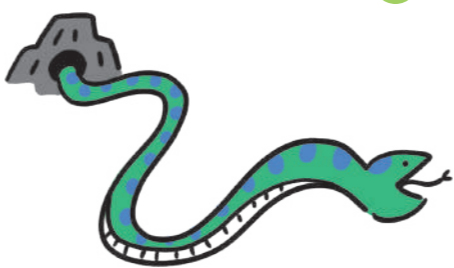
クラスがえねこも恋する新学期

小六 大森つぼみ

# 蛇穴を出づ

仲

冬の間、土の中で冬眠していたへびが春になって目覚め、地上に出てくること。反対に、「蛇穴に入る」という秋の季節もある。(↓4巻59ページ)



蛇穴を出づぼくも本気出す

小五 天野音

# 虫出しの雷

仲

立春(↓56ページ)のあと、はじめて鳴る雷のこと。その音によって、眠っていた虫たちを目覚めさせると考えられている。



こんな季節もあるよ

初雷

初雷やものに驚く病み上がり

正岡子規

# 花盗人

晩

あまりに桜がきれい、枝を折って盗んでしまう人のこと。盗みは悪いことだが、風流などろぼうだと考えられていた。



問ひたきは花盗人のころかな

井上士朗

# 蛙の目借り時

晩

あたたかくなって、眠くなってしまうころのこと。めかるとは「妻狩る」で蛙が相手を求めて鳴きたてることをいう。これが「目借り」になって、蛙に目を借りられ、眠くなるという意味になった。



体育あとの授業蛙の目借り時

小四 やきいも

# 鳥雲に入る

仲

冬の間、日本にきた、わたり鳥が北の国に帰っていくこと。群れをつくって飛び立ち、雲のかなたへ去って見えなくなる様子を表す。



こんな季節もあるよ

鳥雲に

雲に入る鳥

教科書にらくがき雲に入る鳥

小三 ゆず

さえずりが山のおくではがっそうです 小二 排多善人

あたたかな風はつばみをノックする 中二 赤坂優季亜

雪どけだおはようと芽が顔を出す 小四 煌白

春の川希望と魚が泳いでる 小六 相澤健

ぼく笑い笑う姿に山笑い 小六 上杉凜太郎



# 俳句教室 ⑤

## 帰ろうかゆれるぶらんこいつまでも

中二 林口陽

ここがすてき！

この句の季語は、「ぶらんこ」です。「風船」や「しゃぼん玉」とともに、春の季語だと知っておどろく人の多い季語のひとつです。

「ゆれるぶらんこ」をながめている場面ですね。「帰ろうか」、それとも、帰らずに遊ぼうか、とゆれる心と、ぶらんこのゆれがマッチしています。春の夕方のおぼろげな気分も出ています。

もっとよくするには…

この句の重要なポイントは、だれに向かったの「帰ろうか」という言葉だろうという点です。具体的なだれかかもしれませんが、ひよっとすると自分自身へのつぶやきかもしれませんね。

「ゆれる」あるいは「いつまでも」を外して、ぶらんこに乗っているのはだれか、今はだれも乗っていないのかなどが分かる情報を入れてみましょう。



具体的に場面を伝えよう

「ゆれる」「いつまでも」の三音く八音分  
どんな情報を入れる？

- ・だれに？
- ・自分？
- ・乗っている？

考えてみよう

外した音数分でできることは？

あ

赤椿 32  
朝桜 27  
朝寝 17  
朝東風 49  
あさり 21  
あさり汁 21  
アスバラガス 20  
あたたか 44  
あぶら菜 28  
あぶら菜の花 28  
淡雪 50  
いか 15  
いかのぼり 15  
いそ遊び 16  
いそぎんちゃく 35  
いぬふぐり 30  
うぐいす 36  
雨水 56  
歌よみ鳥 36  
うまごやし(の花) 28  
梅 33  
梅が香 33  
梅の花 33  
梅東風 49  
うららか 44  
エプリルフル 8  
遠足 9  
遅き日 44  
おたまじゃくし 34  
落椿 32  
男びな 10

か

お花見 26  
おぼろ 52  
おぼろ月 52  
落し角 58  
親ねこ 35  
かえる 34  
陽炎 45  
風車 14  
風光る 48  
蛸 34  
花粉症 19  
紙風船 15  
亀鳴く 58  
蛙の目借時 59  
きじ 37  
草だんご 22  
草もち 22  
雲に入る鳥 59  
暮れ遅し 44  
クローバー 28  
啓蟄 56  
合格 8  
ゴールデンウィーク 10  
穀雨 57  
東風 49  
こねこ 35  
木の芽 34  
ゴム風船 15  
さえずり 37  
牙返る 43  
桜 26

桜東風 49  
桜吹雪 27  
桜もち 22  
残雪 51  
潮干がり 16  
四月馬鹿 8  
しじみ 21  
しゃぼん玉 14  
受験 8  
受験生 8  
春塵 49  
春雪 50  
春泥 19  
春天 46  
春風 48  
春分 56  
春眠 17  
春雷 47  
しらすばし 21  
白魚 20  
白酒 10  
白椿 32  
白つめ草 28  
進学 7  
進級試験 8  
蟹気楼 45  
じんちようげ 32  
新人生 7  
スイートピー 29  
すずめの子 37  
巣立ち 37

た

すみれ 29  
清明 57  
せり 30  
早春 42  
卒業 6  
卒業式 6  
卒業歌 6  
卒業証書 6  
卒業生 6  
たがやす 18  
たこ 15  
たこの糸 15  
種まき 18  
暖雨 47  
たんぼぼ 28  
遅日 44  
散椿 32  
茶つみ 18  
チューリップ 29  
ちよう 38  
ちようちよう 38  
ちりめん 21  
ちりめんじゃこ 21  
ちりめん 38  
散る桜 27  
散る花 27  
つくし 30  
つくしつみ 30  
つくしんぼ 30

な

つちふる 49  
つつじ 32  
つばめ 36  
鳥帰る 38  
鳥雲に入る 59  
鳥雲 59  
長き日 44  
菜種梅雨 47  
菜種の花 28  
夏近し 45  
菜の花 28  
入学 7  
入学式 7  
入学試験 8  
ねこの親 35  
ねこの子 35  
ねこの恋 58  
野遊び 9  
のどか 44  
のり 21  
ハイキング 9  
はこべ 30  
はこべ草 30  
はこべら 30  
はち 38  
八十八夜 18  
はちの子 38  
はちの巣 38  
初雷 59  
初桜 27  
初ちよう 38  
初花 27  
花曇り 47  
花曇り 47

花盛り 26  
花便り 26  
花散る 27  
花つかれ 27  
花盗人 59  
花の兄 33  
花の香 26  
花の雲 26  
花の山 26  
花冷え 43  
花吹雪 27  
花見 26  
花見客 26  
はまぐり 21  
春浅し 42  
春一番 48  
春惜しむ 45  
春風 48  
春北風 49  
春ごたつ 17  
春寒 42  
春寒し 42  
春雨 47  
春三番 48  
春シヨール 16  
春セーター 16  
春空 46  
春告草 33  
春告鳥 36  
春二番 48  
春眠し 17  
春の朝 46  
春の雨 47  
春の海 46  
春の風 48  
春の雷 47

春の空 46  
春の塵 49  
春の月 52  
春の服 16  
春の雪 50  
春の行方 45  
春の夜 52  
春花 26  
春ひがさ 16  
春ぼうし 16  
春吹雪 50  
春めく 43  
春休み 8  
春行く 45  
春四番 48  
バレンタインデー 10  
彼岸 17  
ピクニック 9  
ひしもち 10  
ひなあられ 10  
ひな人形 10  
ひなまつり 10  
ひばり 36  
ひばり東風 49  
ヒヤシンス 29  
風船 15  
ふきのとう 31  
不合格 8  
藤 33  
ぶらんこ 14  
紅椿 32  
蛇穴を出づ 58  
ほうれん草 20  
ほたるいか 20

ま

ぼたん雪 50  
水ぬるむ 57  
みつばち 38  
虫出しの雷 59  
女びな 10  
桃の節句 10  
桃の花 33  
もんしろちよう 38  
やどかり 35  
やなぎ 34  
山吹 31  
山笑う 57  
夕永し 44  
夕東風 49  
雪解け 50  
雪残る 51  
行く春 45  
余寒 42  
夜桜 27  
よもぎ 31  
よもぎもち 22  
落花 27  
立春 56  
若草 31  
わかめ 21  
わかめ汁 21  
別れ霜 51  
忘れ霜 51  
綿雪 50  
わらびもち 22

わ

ら

や



# みんなの俳句がいっぱい! 学校歳時記

全  
5  
巻

セット  
N.D.C.911

- 1巻 俳句のつくりかた N.D.C. 911
- 2巻 春の季語 N.D.C. 911
- 3巻 夏の季語 N.D.C. 911
- 4巻 秋の季語 N.D.C. 911
- 5巻 冬・新年の季語 N.D.C. 911



監修  
筑波大学附属小学校  
白坂洋一

協力  
現代俳句協会  
秋尾敏  
夏井いつき  
(選・鑑賞)

小学校低学年から  
図書館用特別堅牢製本図書  
AB版／各63ページ

ポプラ社はチャイルドラインを応援しています

18さいまでの子どもがかけるとんわ  
チャイルドライン  
0120-99-7777  
毎日午後4時～午後9時 ※12/29-1/3はお休み 電話代はかかりません 携帯(スマホ)OK

18さいまでの子どもがかけるとんわ専用電話です。  
困っているとき、悩んでいるとき、うれしいとき、  
なんとなく誰かと話したいとき、かけてみてください。  
お説教はしません。ちょっと言いにくいことでも  
名前は言わなくてもいいので、安心して話してください。  
あなたの気持ちを大切に、どんなことでもいっしょに考えます。

チャット相談はこちら

イラスト おおたきょうこ  
かたぎりあおい  
キタハラケンタ  
てらいまき  
meppelstatt  
山中正大  
山本祐司

デザイン 阿部美樹子  
DTP 中尾淳

校正 村井みちよ

編集協力 矢部俊彦

編集・制作 株式会社 KANADEL

協力 現代俳句協会  
筑波大学附属小学校  
荒川区立第一日暮里小学校  
鹿児島市立中洲小学校  
出水市立大川内小学校  
始良市立蒲生小学校  
伊佐市立山野小学校

参考文献 『新版 角川俳句大歳時記 春』(KADOKAWA)  
『読んでわかる俳句 日本の歳時記 春』(小学館)  
『短歌・俳句 季語辞典』(ポプラ社)  
『大辞林 第三版』(三省堂)

みんなの俳句がいっぱい!

## 学校歳時記 2 春の季語



発行 2023年4月 第1刷  
監修 白坂洋一  
発行者 千葉均  
編集 小林真理菜  
発行所 株式会社ポプラ社  
〒102-8519 東京都千代田区麹町 4-2-6  
ホームページ [www.poplar.co.jp](http://www.poplar.co.jp) (ポプラ社)  
[kodomottolab.poplar.co.jp](http://kodomottolab.poplar.co.jp) (こどもっとらぼ)  
印刷・製本 図書印刷株式会社

©POPLAR Publishing Co.,Ltd.2023  
ISBN978-4-591-17642-9 N.D.C.911 / 63p / 27cm Printed in Japan

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。電話(0120-666-553)、またはホームページ([www.poplar.co.jp](http://www.poplar.co.jp))  
のお問い合わせ一覧よりご連絡ください。電話の受付時間は月～金曜日、10:00～17:00(祝日・休日は除く)。  
読者の皆様からのお便りをお待ちしております。いただいたお便りは制作者にお渡しいたします。  
本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。  
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。

P7237002

監修

## 白坂洋一

1977年鹿児島県生まれ。鹿児島県公立小学校教諭を経て、2016年より筑波大学附属小学校国語科教諭。『例解学習漢字辞典』(小学館)編集委員。『例解学習ことわざ辞典』監修。全国国語授業研究会理事。「子どもの論理」で創る国語授業研究会会長。主な著書に『子どもを読書好きにするために親ができること』(小学館)等。

協力

## 秋尾敏

1950年埼玉県生まれ。千葉県公立中学校・教育委員会勤務を経て、1999年より軸俳句会主宰。全国俳誌協会会長、現代俳句協会副会長。評論集に『子規の近代 一滑稽・メディア・日本語一』(新曜社)、『虚子と「ホトトギス」 一近代俳句のメディア』(本阿弥書店)等、句集に『ふりみだす』(本阿弥書店)等。

## 夏井いつき (選・鑑賞)

1957年生まれ。松山市在住。俳句集団「いつき組」組長、藍生俳句会会員。第8回俳壇賞受賞。俳句甲子園の創設にも携わる。松山市公式俳句サイト「俳句ポスト365」等選者。2015年より初代俳都松山大使。第72回日本放送協会放送文化賞受賞。句集『伊月集鶴』、『瓢箪から人生』、『今日から一句』等著書多数。



あそびをもっと、  
まなびをもっと。  
こどもっとらぼ